



「“まちの担い手” が うまれるカフェ」 への挑戦と広がり

～小さな「できる」「やってみたい」から始まる、
誰もが豊かに暮らせるまちづくり～



はじめに

私たちNPO法人こまちぷらすは「子育てが『まちの力』で豊かになる社会」を目指して2012年から活動しています。その社会を実現するために必要なのは「孤立した子育てをなくし、それぞれの人の力がいかされる機会をつくること」だと感じ、神奈川県横浜市戸塚区の「こまちカフェ」という居場所の中で「対話と出番」の機会をつくってきました。

その「対話と出番」づくりに力を注ぐ中で、飲食の提供やイベントの開催をしながら日々持ち込まれる様々な「困った」や「やってみたい」の全てには対応しきれない現状も生まれていきました。対話には大きなエネルギーも要し、人によっては、言葉や言葉にする力を取り戻すための時間がかかることもあります。また、出番といっても、各々が自分の「できる」ことを探したり誰かの「困った」に触れたり、そこに「自分が何か力になれる」という微かな自信を積み上げていくような時間も必要です。その大切なプロセスを地域のインフォーマルな場でできることの**可能性**と、その**難しさ**を感じてきました。



「可能性」については、インフォーマルな場であるがゆえに、担い手となりうる潜在層が日々集まっているということです。多くの方が、自分がやりたいこと、できることを探りながら場に参加し関わっています。当事者としての悩みと同時にたくさんの力をもっていて、このエネルギーが子育てのみならず地域の様々な地域課題の解決につながっていく可能性を感じます。

「難しさ」については、一人一人に寄り添うための時間、仕組み、またそれらを継続していくための財源の確保が大きなポイントでした。また、コーディネーター的な人材や役割が必要と感じてきました。

これらの可能性と難しさを踏まえて、私たちは2016年から日本財団の助成を受けて、中間支援のNPO法人CRファクトリーに伴走してもらいながら本研究助成プロジェクトに取り組んできました。この取り組みの中で、様々な方が「やってみたいこと」を丁寧にあたためる機会を「居場所」の中で作り、誰かの困りごとや地域の困りごとに触れるうちに、いつのまにか「まちの担い手」になっていたというような状態を生み出すための仕組みを作り、検証してきました。また、それらをさらに実現可能なものとするため、取り組みを担うコーディネーターのあり方を探ってきました。

本資料はその3年間の軌跡、ノウハウ、現場に落とし込む際の私たち自身の戸惑いや迷いも含めたポイント、こまちカフェ以外の場や機会での展開などをまとめています。「まちの担い手がいつのまにか地域で増えていた」という状況をいかに多くの地域でつくっていかれるかを、今後全国の皆さんと一緒に考えたいと思います。その先に、全国各地で活動されているみなさまやそれらの活動をサポートされている中間支援・行政のみなさまと、子育てはもちろん、介護・障がいといった身近な社会的な課題に主体的に取り組む人が増え、誰もが自身や家族がどんな立場になっても豊かに暮らせる社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

1. 実施主体について

本事業は、カフェという実践の場を持つ「NPO法人こまちぷらす」及びNPOや様々な非営利団体の中間支援を長年実施しコミュニティ形成のノウハウを持つ「NPO法人CRファクトリー」が、日本財団の助成のもと協働で実施をしている事業です。

NPO法人こまちぷらすについて

NPO法人こまちぷらすは子育てが「まちの力」で豊かになる社会の実現に向けて2012年から活動をしています。

こまちカフェの運営や情報発信、様々なスペシャルニーズの自助会的な場の運営といった、**子育て中の方に向けての直接アプローチ**と、商店会事務局やヤマト運輸株式会社とともに立ち上げたウェルカムベビープロジェクト等、**既存の福祉分野だけではないまちの様々なプレーヤーの方々の理解を深め、共に子育て環境の改善に向けた協働の場を設計するアプローチ**の2つのアプローチをもとに6つの事業を50名のスタッフ・ボランティアのみなさんとともにを行っています。

福祉的なサポートを必要としているわけではないものの、何かしらのサポートが必要な方にとって制度やサービスの隙間を埋めるような「日常の中のサポートの場」とすると同時に、福祉的なサポートを多く必要とする方にとっての「日常の場」とあるという二点を満たすべく事業を展開して参りました。

Vision
— 私たちが目指している社会 —

子育てが「まちの力」で豊かになる社会へ

Mission
— 私たちの役割 —

孤立した子育てをなくしそれぞれの人の力が活きる機会をつくる

Slogan
— スローガン —

子育てを「まちで」プラスに



<こまちぷらす詳細>
事務局/こまちカフェ
〒244-0003
神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
145-6奈良ビル2F
営業時間：10:00-17:00（日・祝お休み）
HP：<https://comachiplus.org/>
E-mail：staff@comachiplus.org




NPO法人CRファクトリーについて


NPO法人CRファクトリーは、「すべての人が『居場所』と『仲間』を持って心豊かに生きる社会」の実現をビジョンに活動しています。主な事業内容は「NPO・市民活動・サークル活動」の組織運営・マネジメント支援を強みに、行政や中間支援組織と連携しながら、セミナー・コンサルティングを全国各地で実施しています。主な実績は、「地域コミュニティの担い手養成塾（東京都中央区）」、「地域をつなぐコーディネーター養成講座（東京都武蔵野市）」「かまがや地域づくりコーディネーター養成講座（千葉県鎌ヶ谷市）」など。

ビジョン/ミッション

【ビジョン(目指す姿)】
すべての人が自分の「居場所」と「仲間」を持って心豊かに生きる社会



【ミッション(使命)】
居場所と仲間を感じるあたたかいコミュニティを世の中にあふれさせること



基幹技術・ノウハウ

愛着と関係性のマネジメント

「団体・組織への愛着」や「スタッフ・仲間との関係性」をどのように高めていけば良いのか、についての**技術・ノウハウ**

愛着:この団体のことが好きだ・居心地が良い
関係性:この仲間と一緒に仕事・活動していることが楽しい

<NPO法人CRファクトリー詳細>
〒108-0014
東京都港区芝4-7-1西山ビル4階

HP：<https://crfactory.com/>
お問い合わせ：info@crfactory.com



日本財団について

「みんなが、みんなを支える社会」をめざし、市民、企業、NPO、政府、国際機関等と連携しながら「震災復興」「障害者就労」「アスリートによる社会貢献活動」等に取り組む日本財団では、近年、特に「子どもの貧困対策」や「児童養護施設等で育った子どもに対する奨学金」、「養子縁組の促進」、「難病児支援」等、幅広く「子ども」をサポートするプロジェクトを進めております。詳しくは「日本財団 子どもサポートプロジェクト」で検索下さい。

日本財団HP <https://www.nippon-foundation.or.jp/>

2. 実施概要

目的：本事業の目的は、カフェという場を通して一般市民が一杯のコーヒーを飲みに来る敷居の低さから「場」へ参加でき、カフェにおけるコーディネーションにより地域の担い手になるまで伴走するモデルをつくることを目的としています。また、実施2年目となる2017年度からは、開発したモデルにおけるノウハウを他地域・他団体に展開することで様々な地域に担い手が生まれる場が増えることも目指して「横展開」にも取り組んでまいりました。

実施期間：2016年4月～2019年3月



3年間のあゆみ

	コーディネーター育成	こまちモデルの 開発・検証	横展開
	4月 「つながりデザイン事務局」 発足		
2016年度	4月 コーディネーター2名 育成開始 (講師：CRファクトリー)	10月 「パートナーぷらす会」 「とつかフューチャーセッ ション」開始	
2017年度	5月～ コーディネーター2名 育成開始 (講師：2016年度育成のコー ディネーター) → コーディネーター 4名体制に	開発	7月 千葉県松戸市co-no-miでの コーディネーター育成研修 9月 横浜市都筑区子育て支援拠点 にて講座開催 11月 横浜市泉区まちづくりみらい塾 視察 2018.1月 横浜コミュニティカフェ ネットワーク研修会にて 報告
2018年度		価値の 可視化・ 検証	5月 松戸まちづくりキーパーソン 養成講座 東京都杉並区子育て広場より視察 6月 横浜市都筑区シニアスター講座 視察 9月 かながわコミュニティカレッジ にて連続講座開催 11月 宮城県石巻市にて講座開催 横浜市泉区まちづくりみらい塾 視察 川崎市自立支援協議会での ワークショップ開催 2019.2月 座間市社会福祉協議会 子育てサポーター育成講座 小田原市生涯学習講座



2016年度コーディネーター育成研修



もくもくの会



宮城県石巻市での講座

図1：こまちぷらすつながりデザイン3年間のあゆみ

コーディネーター育成研修

1年かけて同時に2名のコーディネーターを育成し、相互に育ちあう環境をつくりました。育成メニューとしては次のように、居場所作りコーディネーターが必要なスキルを分解し、研修メニューとして組み立てました。

研修メニュー

- ① コーディネーターとは
- ② 理念共感
- ③ 面談力
- ④ ファシリテーション力
- ⑤ こまちに関わる人の報酬を知る
- ⑥ 壁打ち（相互理解）
- ⑦ 集客力
- ⑧ 効果的なミーティング設計
- ⑨ プレゼン力
- ⑩ 自分自身と関わる人の報酬について（補習）

テキスト例)



3. 用語の定義

本事業における「まちの担い手」の定義

「私のやりたい」を原動力に、地域のソーシャルキャピタル（つながり）を醸成しながら、公的制度やサービスの狭間を埋めている一般市民。

無関心層・興味層・愛着層・主体層・主体市民層とは

	興味	愛着	主体（PMメンバー）	主体市民（地域で活躍）
達成状態	イベントに参加したことがある	知り合いができています	何か役割を担っている	地域課題に対して組織の内外問わず主体的に活動している
機会	・飲食 ・イベント ・haco+（雑貨）	・パートナー登録説明会 ・面談 ・おしゃべり会	・パートナーぶらす会員交流会（学び・相互メンタリング） ・もくもくの会	・フューチャーセッション
事業性	恩送りカード	参加費	パートナーぶらす会員費（半年3000円）	法人協賛・個人寄付
指標	700人	70人	30人	15人

コーディネーターが各フェーズをコーディネート（集客・つなげる・適材適所など）

※「興味→愛着→主体」のモデルはNPO法人CRファクトリーが考案したものをNPO法人こまちぶらすと共に「居場所」における場や機会への落とし込みを本事業を通して実施。無関心層や主体市民層のモデルについては本居場所事業のコンテンツとして発展。

居場所づくりコーディネーターとは

こまちカフェがその方にとっての「居場所」となり、様々な場への「参加」や人との「つながり」を通じて主体的な気持ちが育つことを目指したコーディネーションを担当。こまちぶらすでは、2016年度に2名、2017年度に2名育成し、現在4名で担当している。



居場所づくりコーディネーターの4名

こまちパートナーとは

こまちぶらすの理念に共感し自身の「できる」や「やりたい」を模索し掛け合わせながらスタッフと共に活動を推進しているボランティアメンバー。2019年2月末現在で148名登録



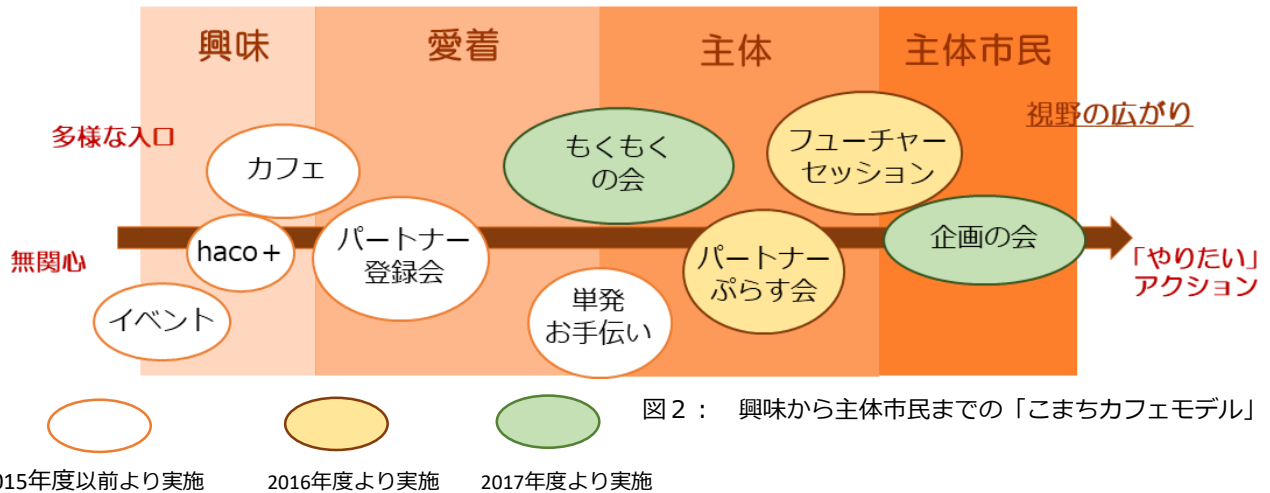
パートナーぶらす会員・もくもくの会・とつかフューチャーセッション・企画の会 → 次項参照

こまちパートナーによる企画の様子

4. まちの担い手が生まれるカフェへの挑戦

カフェを訪れた方の「やってみたい」が育ち、アクションに向けて動く「主体」になるまで

飲食やイベント参加をきっかけにこまちカフェを訪れた方の、「できる」「やってみたい」が次第に育つような、つながりやきっかけを作るべく、2016-17年度において以下のような場や機会を設けてきました。



- haco+ … こまちカフェ店内にて手作り小物の委託販売を実施。出店者・購入者双方にとっての社会との接点
- こまちパートナー登録説明会…こまちぷらすの理念や活動を知り、自分について語り合うワークも実施。
- イベント…当事者性の高いテーマにしぼった形で互いの思いを話し合う「おしゃべり会」など。
- もくもくの会…パートナーの方々がカフェにて1-2時間ほどで終わる軽作業を行う会。
- パートナーぷらす会…パートナー同士がつながる場。交流会や研修会を月1回の半年間実施。
- とつかフューチャーセッション…「子育て」「障がい」「介護」をテーマに様々な立場の方と共に考える会。
- 企画の会…「やってみたい」を形にする過程をグループにて学ぶ場。

2016-17年度における「こまちカフェモデル」の成り立ち

【背景】

パートナー登録後の横のつながりを作る場が必要。→**パートナーぷらす会**

多様な人と共に学び、地域課題にふれる場が必要。→**とつかフューチャーセッション**

パートナー登録後に活動に参加する機会の充実が必要。

「やってみたい」が見つからなくても役割をもって参加できる場が必要。→**もくもくの会**

それぞれの「やってみたい」へ個別伴走だけではなくグループで学べる場が必要。→**企画の会**

【導入したもの】



こまちパートナー登録説明会



パートナーぷらす会



とつかフューチャーセッション



もくもくの会



企画の会

2016～2018年度の登録人数・実績 ※2016年4月～2019年2月末

パートナー登録(愛着) 148名(2015年度の登録9名含む)

パートナーぷらす会員(主体) 50名(延べ人数) 企画にかかわった人(主体市民) 40名(延べ人数)

5. 3年間の取り組みで見えてきたこと・生まれたもの

「まちの担い手」が育つ場に必要要素

私たちが取り入れてきた様々な手立てや重ねてきた工夫、パートナーの方々の様子や変化を振り返り、それらのもつどのような要素が「主体的にかかわる人を増やすこと」に効果的であったか、欠かせなかったかを以下のように整理しました。



図3：こまちカフェにおける「担い手が育つ場」に必要な要素（2018）

3年間で生まれたもの ～パートナーの皆さまの企画・活動～

1-2年目

- ・お子さんの発達に不安をもつ方のための会
- ・戸塚初心者会の会
- ・育休後のおしゃべり会
- ・シングル子育ての会
- ・手づくりの会
- ・積み木の会
- ・ドキュメンタリー映画上映会



映画Given上映会



こまちパートナー企画

3年目

- ・不登校ひきこもりの子をもつ親の会
- ・趣味やモノづくり（ハーバリウム）を通した息抜きの会
- ・カフェ入口での野菜販売
- ・夏まつりでの特別支援学校のご家族サポート

（開催予定）

- ・子ども心を知る親子カフェ
- ・子育てママのためのアロマの会
- ・0歳児ママのためのパン教室



夏まつりサポートボランティア



こまちカフェ入口での野菜販売



不登校ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日～

当事者発の「こんな場が欲しかった」という思いから生まれる企画

1人ではなく仲間と一緒にもてる新しい分野との接点

6. 「カフェ」という場のもつ「価値」の検証

「孤立と居場所」についてのアンケートの実施

カフェという「居場所」のもつ力や、私たちの取り組みの可能性や価値についての検証として、現代社会の人間関係や孤立について研究されている早稲田大学石田光規教授と、ゼミ生の皆さまと合同で「孤立」と「居場所」について調査を実施いたしました。

○調査概要

- 【目的】 こまちぷらすの実施する施策や事業への関わりの大きさと「子育てにおける孤立感」や「豊かな子育て環境」の関連を調べる。
- 【期間】 2018年10月～12月(アンケート配布および回収)
- 【対象者】 ①こまちパートナーの方々 27名・パートナーぷらす会員の方々 23名
②こまちカフェに初めてもしくは2回目のご来店の方 50名
③イオンこまちパーク(※)ご利用の方々 50名

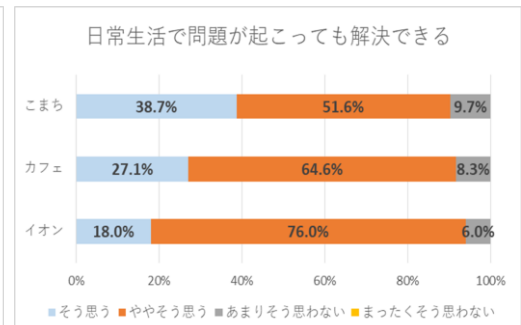
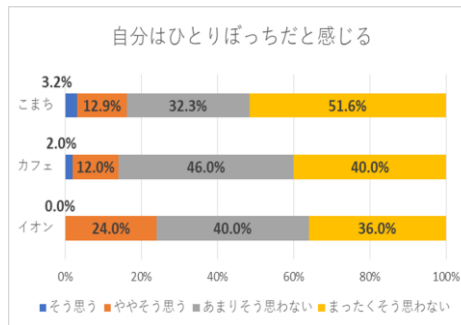
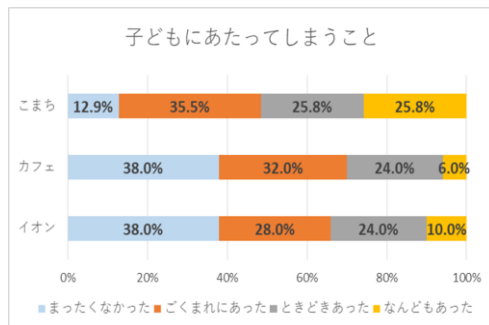
※イオンスタイル東戸塚キッズリパブリック東戸塚店の「リパバーひろば」にて、0歳児の親子が集えるひろばを週一回運営

【質問内容】

- ・育児に関する家族や周囲のサポートの有無
 - ・育児サービスの利用
 - ・外出や情報収集について
 - ・母親自身の心身の状態について
 - ・こまちカフェの利用について
- 等 全23項目



○調査結果



質問項目：子どもにあたってしまうこと
選択肢：まったくなかった～なんどもあった

質問項目：自分はひとりぼっちだと感じる
選択肢：そう思う～まったくそう思わない

質問項目：生活で問題が起きてても解決できる
選択肢：そう思う～まったくそう思わない

※石田光規教授による作成

4カフェ学びあい研修

「子育て」を主要なテーマとしたこまちカフェという場・コミュニティのノウハウが、他の分野でも同じように活用できるのか、そして、他のテーマの場・コミュニティの運営者の方々とのノウハウを磨き合えないだろうか、という問題意識から「4カフェ学び合いワークショップ」という取り組みを始めました。それぞれ「高齢者」「障がい者」「若者」「子育て」と対象や分野の違う場所を運営している4カフェの代表が集まり、お互いの運営課題を共有したり、具体的な実践ノウハウを共有しあいました。



- 【目的】 カフェという場における実践ノウハウの共有と磨きあい
- 【期間】 2018年10月～2019年2月(計3回)
- 【参加者】 さくら茶屋(横浜市金沢区) 岡本溢子氏
いのちの木(横浜市都筑区) 岩永敏朗氏
CASACO(横浜市西区) 加藤功甫氏
こまちカフェ 森祐美子・北本若葉・山田顕子・守家文子
【ファシリテーター】 CRファクトリー 呉哲煥氏

7. 「担い手が生まれる場」の広がり～他地域・他団体への展開～

本取り組み2年目となる2017年度からは、開発したモデルにおけるノウハウを他地域・他団体に展開することで、様々な地域に担い手が生まれる場が増えることを目指して「横展開」にも取り組んでまいりました。

2018年度はより一層他地域・他団体への展開に力を入れ、「こまちカフェモデル」の検証と他団体へ展開する際に必要なことなど振り返りながら、様々な形での講座開催や研修会講師などを行いました。

2018年度の主な実施例

×活動団体 神奈川県

×市民 宮城県石巻市

×支援関係者 座間市社会福祉協議会
小田原市生涯学習課 川崎市自立支援協議会



集合研修型展開



市民向け集合型研修



単発講座・ワークショップ展開



×活動団体～かながわコミュニティカレッジでの講座開催～

かながわコミュニティカレッジの講座として、神奈川県内で活動する団体・個人を対象にこまちがらすでの取り組み事例を紹介し、ワークを中心に学びあう講座を開催。

- 【実施地域】 神奈川県
- 【実施回数】 全5回連続講座
- 【参加者】 横浜市近郊 25名11団体
- 【目的】 市民やスタッフの主体性を高める・工夫を学びあう



×市民～石巻「じぶんプラスカフェ」～

2017年度に横浜市都筑区子育て支援拠点で開催した、「子育て中のお母さん達の主体的な活動」を生み出す3回連続講座を、宮城県石巻市でも開催。

- 【主催】 NPO法人ばんぷきんふれあい会（介護事業）
- 【実施回数】 全3回連続講座
- 【参加者】 宮城県石巻市近郊在住の0歳～5歳の母親 17名
- 【協力者】 子育て支援NPO 2団体 市社会福祉協議会
- 【目的】 子育て中の母親同士がつながり、主体的に企画を立てるきっかけをつくる。



【生まれた企画】

【プログラム】

- ① 自分の「やってみたい」を知る・仲間と共有する
- ② 「やってみたい」が「地域の困った」とつながる（グループ単位）
- ③ グループごとにチラシを作りプレゼン

こまちカフェ、知らなかった！
情報共有

石巻子供連れおでかけマップ
集まれる場所
遊び場
一時保育が可能な場所など

職場復帰しても集りたい！
参加者二重

「子育ておもしろ」
NEW OPEN
子育て支援センター

ババ友を作る機会がない！
協力者二重

Cmon baby BBQ
2018年7月13日
10:00～12:00

×支援関係者～川崎市自立支援協議会連絡会でのワーク開催～



【実施時期】 2018年11月

【参加者】 川崎市各区自立支援協議会メンバー・市民・当事者等 計66名

【目的】 提出されてきた課題に対して、各々ができること、やりたいことを確認し深める場をつくる。
分野を超えた連携、新たな関係性の構築のきっかけとする。

【実施内容】 提出された課題を使用しての対話のワークショップ

8. 多様な立場の方々と共に ～×企業の可能性～

こまちカフェという日常の入口から関わった方がカフェという居場所での様々な機会を通して自身の「やってみたい」を育てることと共に、「やってみたい」を持ち込める場所や相手を広げていくことも必要であると私たちは考えます。行政や市民活動やまちづくりの分野のみならず、企業もその相手になり得る可能性を持っています。様々な分野の方々とつながりから、企業と共催でワークショップを行う機会をいただき、そこから様々なことが見えてきました。

×パナソニックリビングショウルーム横浜とのワークショップ開催

【開催日】 2018年11月14日

【参加者】 周辺住民・自治会・企業・商業施設・ショウルームスタッフ 等

【ショウルームの課題】 ショウルームの活性化・地域との連携

【実施内容】 ゲストスピーカーによる講演・対話のワーク

【目指した効果】

まちの有休空間として、ショウルームを地域の人々の「やってみたい」が持ち込める場にする。→ **主体的に場に関わる人をふやす**

ショウルームを活用したまちづくりのアイデアを参加者の皆さんと考える

→**企業と地域（町内会）の連携のきっかけをつくる。**



グループごとに
ショウルーム探検



空間を知り

plan-A 相澤氏による講演



空間と人・人と人がつながることの可能性を考え

「3枚の葉っぱ」ワーク



ショウルーム×「私のアクション」

出されたアイデア

ポートサイド町探検
ショウルームで福祉体験
近隣をまわるスタンプラリー
防災イベント
パパ友を作るイベント
音楽や本を楽しむ交流の場
など全69

ワークショップ開催後の動き～自治会×企業×商業施設

ワークショップで出されたアイデアをもとに、ショウルームの近隣自治会、近隣商業施設を中心とした方々と意見交換会を2回開催し、それぞれの課題や「こうなったらいいな」を共有しました。

まずは「住民と企業」の合同での親睦まちあるきで「共にまちを知る」「互いの場をきる」機会を4月に開催し、今後の連携の可能性を引き続き探ります。

また、ワークショップ参加団体によるショウルームでのイベント開催や、参加者からの紹介によるイベント開催やコラボ企画も生まれています。



企業も「やってみたいを持ち寄れる場・相手」となり、
住む人×働く人でその地域を共に考える関係に

9. 事業性～継続可能な取り組みとするために～

こうした居場所における「対話」を重視した担い手育成の場の設計は重要です。しかしながら、事業性に欠けると継続性が難しいため、各ステージにおける利用者負担及び個人寄付や地域負担（寄付・協賛）を組み合わせながらすすめることが必要です。

そこで、本事業においては、利用者負担（参加費・会費）と地域負担（寄付・協賛）を2層に分けて整理し、1年目は特に利用者負担部分の設計を主に、2年目は地域負担部分を設計、3年目はその2層の上に他地域や他団体への展開による収入の部分が見込まれる3層を目指しました。（図5参照）

自主財源モデルの確立

3カ年かけて、「利用者負担」「地域負担」「横展開収入」の3層からなる自主財源モデルを確立するべく、それぞれの年度において、以下の設計と検証を行いました。

【1年目】

各段階におけるキャッシュポイントの設計

【2年目】

恩送りカード
チラシ広告協賛

【3年目】

自治体での単発・連続講座の設計
企業への展開設計
地域負担モデルの再検討
制度化に向けての検証

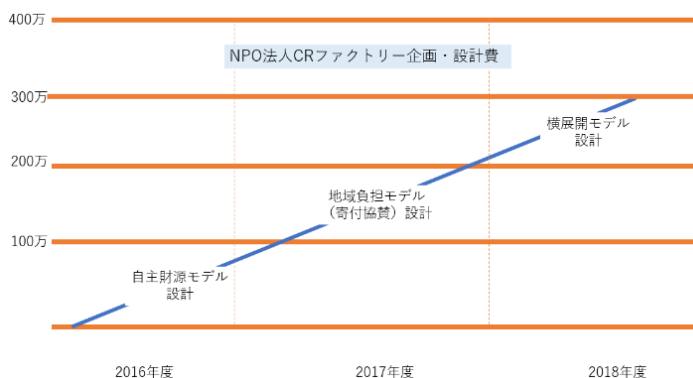


図4：本事業における3カ年の自主財源設計

3年間の事業収入

2016-18年度 事業収入

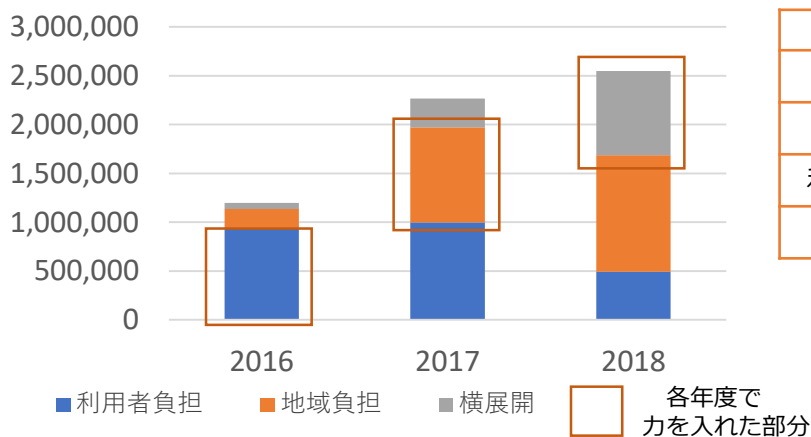


図5：3年間の事業収入

※2018年度は2019年2月末までの実績

	2016年度	2017年度	2018年度
横展開	62,000	294,958	861,660
地域負担	195,644	972,000	1,192,600
利用者負担	940,281	997,800	493,300
合計	1,197,925	2,264,758	2,547,560

利用者負担...500円～1000円程度の参加費
パートナーぷらす会員会費（3000円/人）

地域負担...主に恩送りカード（※P11参照）及び協賛

横展開収入...主に自治体向けの講座開催等

検討会の開催

対自治体への横展開のみでなく、対企業という視点もふまえ、私たちの活動の価値や強み、そして活動が持続可能になるために必要な制度を考える検討会を開催しました。

【実施期間】2018年8月～11月（計4回）

【講師】日本ブラインドサッカー協会事務局長 松崎英吾氏

【参加者】こまちぷらすスタッフ

【内容】「居場所における活気のある場、対話、コーディネート」
に必要な資金の持続可能な調達方法を検討をする



おわりに

「子育てで孤立しない社会」を目指して、子育て中のお母さんたちに「居場所」をつくり、「情報」を届けることから活動を始めたこまちぷらすですが、「居場所」にたどり着くだけでなく、そこでの様々な活動を通して、「自分の力がいきる」ような機会も作り出すべく、団体設立4年目となる2016年に「つながりデザインプロジェクト」が立ち上がりました。

この3年間、試行錯誤の繰り返しながらも、様々な方がそれぞれの思いをもってこまちカフェを訪れ、時に「こまちパートナー」や「こまちパートナーズ会員」になってくださり、他愛もない近況報告からその方の人生に深く関わるような話、また、他では言えない胸の内を話し合うような場面にも多く立ち会ってきました。その姿やその思いに触れ、心が動き、「自分だけじゃない」と思ったり、自分らしくいていいのだという自信を得たり、自分にも何かできることがあるのでは…という気持ちを育てているのは、こまちパートナーの方々だけでなくスタッフの私たちも同じです。スタッフにとってもこまちカフェは「居場所」として、新しくカフェを訪れる方、関わり続けてくださる方、お引越しや復職などを経てふらりと戻ってきてくださる方との出会いや時間を大切にできる場でありたいと考えます。

また、こまちぷらすのパートナーやスタッフが立ち上げる企画の中には、自身の当事者としての経験からくるものが多くあります。「当事者」というと、制度上は支援の受け手となったりケアが必要な側のイメージを抱きがちですが、当事者だからこそ「主体的」に活躍できることがあるのだと、教わる場面も多くありました。「多様性」「共生」という言葉を多く耳にするようになった一方で、様々な「自分と異なる」経験をしてきた人と、互いを知るような機会は日常の中にはまだまだ多くありません。小さなカフェでの、小さな場の積み重ねから、様々な経験をしてきた人どうしが、双方向に高めあうような関係性が社会の様々な場に増えていくきっかけになればいいなと思っています。

あるパートナーさんが、「自分にも誰かのためにできることがある！と思うとワクワクした」といきいきとした表情で話してくださる場面が最近ありました。そんな風に、まず活動するその人自身が「楽しい」こと、そして、その楽しさやワクワクする気持ちを共有できる相手がいることを何より大切にしながら、これからも「まちの担い手がうまれるカフェ」への挑戦は続きます。

こまちぷらすでの私たちの取り組みも「こまちカフェモデル」も、もちろん万能ではありません。カフェという場の可能性とともに限界もあり、関わる「人」ならではの、できることとできないことがあります。だからこそ、報告会にご参加くださった、またこの冊子を手にとってくださった皆様の活動やその場に、いろいろな形で工夫や手法などを取り入れていただき、また、時にはご一緒する機会をいただけましたら幸いです。そしてその結果、地域の中のいろいろな場所で、様々な人が「自分にあった場」を選ぶことができ、その先でどんな人も「自分らしい活躍」ができるようになる未来を、皆様と一緒に目指してまいりたいと思います。

最後に、ここまでの挑戦を支えてくださった方々、応援してくださった方々、ご関心をお寄せ下さり様々な機会をくださった方々、そして共に活動して下さるパートナーの方々、すべての皆様に心より感謝申し上げます。



参考資料～こまちぷらすで使用しているさまざまなアイテム～

こまちぷらす
「きっかけ・ゲット・フューチャー」シート

comachi plus

【きっかけ】
Q:なぜ自分の団体に関わろうと思ったのか？

【ゲット】
Q:自分の活動を通して得たいことは？

【フューチャー】
Q:自団体への参加や活動を通して何を実現したいか。1年後どんな自分になっていたいか？

Copyright (C) NPO法人こまちぷらす. All Rights Reserved. 2

「きっかけ・ゲット・フューチャー」シート

パートナー登録後の面談やぷらす会員、スタッフ自身も使用。

- ・登録や参加に至った「思い」
- ・取り組みたいこと
- ・一年後や半年後どうなっていたいか？を考え、共有する。

自己紹介シート

パートナー登録会のワークに使用しているもの。
得意なこと・好きなこと
苦手なもの・お願いごと
子どもの頃の夢など
「私」について語り、それらを活かしてこまちぷらすでやりたいことを考える。

自己紹介シート：

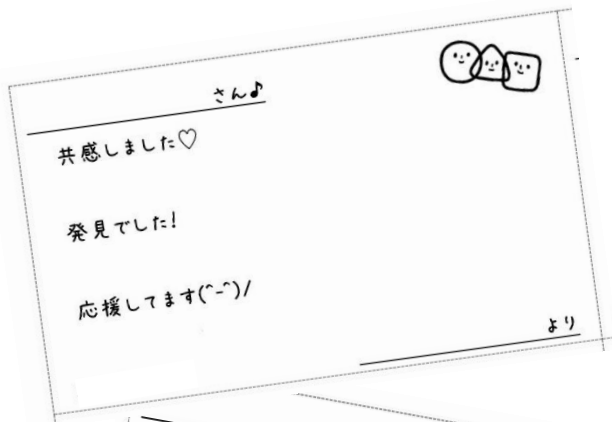
comachi plus

【得意なこと・好きなこと・モノ・性格など】

【苦手なこと・嫌いなモノ・お願いごとなど】

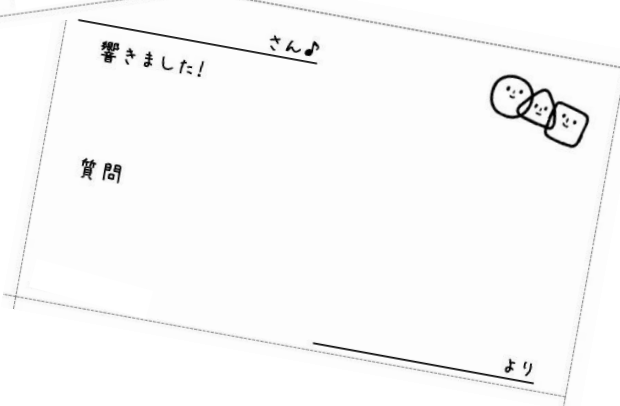
【小さい頃の夢・学生時代の部活・自慢話・頑張っていること・はまっていること・今の夢など】

私×こまち でやってみたいこと



「ぷらす会員」や「企画の会」コメントカード

参加者間での気づきや思いのやりとりのツール
項目は使用機会に応じてアレンジ。
プレゼンの機会には全員に配り、お互いに記入したものを交換する。



恩送りカード

送り主の方が指定した「電車好きの親子のママへ」「〇〇に由来のある人へ」などといった条件を満たしているカードを選んで、カフェ来店者が飲み物を送り主のご好意で一杯飲むことができる。
(1,000円のうち半額はドリンク代、半額は法人への寄付金。)

ありがとうございます
お返事を
お願いします

恩送りカード

送り先：
.....

送り主：
.....

コメント：
.....

お返事：
.....

..... 下のメニューから一杯プレゼント！.....
・こまちのコーヒー（ホット） ・きび抹茶（ホットorアイス）
・こまち茶（ホットorアイス） ・アイス珈琲 ・アイスティー

より

memo

「まちの担い手が育つカフェ」への挑戦と広がり 三ヵ年研究実践プロジェクト報告書

2019年3月10日初版

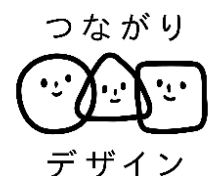
特定非営利活動法人 こまちぷらす

理事長 森 祐美子

所在地 横浜市戸塚区戸塚町145-6 奈良ビル2F

【つながりデザイン事務局】 HP : <https://comachiplus.org/community/tsunagaridesignproject>

Email : tsunagari@comachiplus.org Tel : 045-443-6700



※本書の本文・写真・資料等をご使用される場合は、当法人までご一報ください。

本事業はNPO法人CRファクトリーと共に行っている「地域の居場所づくりと参画のデザイン」の一環で、日本財団の助成を受け活動しております。

comachi
plus



CRファクトリー
Community & Relationship